

令和7年12月号

川越セントノア病院 〒350-1155 埼玉県川越市下赤坂290-2  
TEL049-238-1160 FAX049-238-1162 <https://www.saintnoah-kawagoe.jp>



# ノアの爽風



## ～目次～

- 病院短信『認知症の専門病院として(その1)』  
瓦井 洋
- 介護だより
- 作業療法室だより
- 日常の一コマ
- 『子供と遊ぶ』  
主演 ナナ

## 12月の予定

### ◆誕生日会

1病棟: 12日(金) 14:15～  
2病棟: 11日(木) 14:00～  
3病棟: 10日(水) 14:00～

各病棟にて

### ◆キャンドルサービス25日(木) 14:30～





## 病院短信

セントノア病院 創立者  
瓦井 洋

『認知症の専門病院として（その1）』  
平成14年、今から23年前になりますが、私は認知症の専門病院として川越に「川越セントノア病院」を、そしてその3年後に春日部に「春日部セントノア病院」を創りました。

この認知症という病気、皆さんも既に存知でしょうが残念なことに現在の医療では治すことが出来ません。本来、病院と言ったのは病気になった人や怪我をした人を治療し治すための施設です。それなのに何故、私がこの治らない認知症の専門病院を創ったのか、と不思議に思われるかもしれませんが、かなり勝手な手前ミソになりますが、その動機などを「独り言」で呟きます。

昭和から平成になった頃、私は千葉県のある病院の再建に関わっていました。その病院は救急外来もあるごく普通の病院でしたが、高齢化の波はその病院にも押し寄せ、入院患者（160床）の約半分は高齢者、すなわち簡単に言えば半分の病棟が「老人病棟」となっていました。つまり、いろいろな病気（ほぼ慢性疾患に近い）を抱え、体力的にも衰えて必然的に点滴をしている患者さん達も多く、当然のように入院も長くなる病棟なのです。そんな病棟に認知症と思われる、どちらかと言えば精神科に近い患者さんが入院してきたのです。看護師たちは、言う事を聞かない患者さんを前にどう対応していいのかわからず、右往左往です。

つまり一人の手の掛る認知症患者の為に、かなりの看護師が影響を受けて、他の患者の対応がどうしても手薄になってしまっている。そこで看護部長は、その患者を即退院させてほしい、と私に直談判に来ました。その時は私も仕方なく許可をしました。ところがその翌日の午後、看護部長がその患者さんの娘さん（40代後半）を連れて私の部屋にやって来たのです。そしてその娘さんは、私の部屋に入るなり、いきなり泣きながら土下座をしたのです。そして私に、他の病院はもちろん施設もいくつか当たりましたが全て断われ、この病院を出されたら行くところがない、と泣かれました。私は直ぐにその娘さんの手を取り、椅子に座らせ、うちの病院でも入所させてくれる施設や入院をさせてくれる病院を一緒に探しましょう。そして転院先が見つかるまではこの病院でお預かりしますので、と言ってなだめました。

そして、その日の午後、看護部の職員全員を集めて『今までの看護・介護はそのままでもいいが、改めて認知症患者の特性を把握した上で、カンファレンスを行い、新しい看護・介護を看護師としての原点に戻って探っていくじゃないか』と激を飛ばし、その前例として何人かの認知症患者を受け入れました。しかしそうはいっても看護部長のキツイ要望は収まらず、認知症の患者は、とりあえず一部屋（四人部屋）だけという結果でした。これが私が初めて「認知症の入院患者」に接した日となったのです。（次回に続く）

## 介護だより

いよいよ師走を迎え、今年も残り少なくなってきました。朝晩の冷え込みが強まり、体調管理がより大切な時期になります。気温の低下とともに、インフルエンザや新型コロナウイルス・ノロウイルスなどの感染症が流行する季節ですが、感染予防の基本は「手洗い・うがい・マスクの着用」です。外出時や食事の前には石鹸でしっかり手を洗い、アルコール消毒を併用しましょう。また、室内の湿度を保つ事も大切です。乾燥はウイルスの活動を活発にし、喉や鼻の粘膜を弱めてしまいます。加湿器の利用やこまめな水分補給を心がけ、元気に新しい年を迎えられるよう過ごしていきたいと思えます。



## 日常の一幕

今月は1病棟のたけさん（85歳）です。

静岡県出身で11人兄弟の下から3番目に生まれました。小学校卒業後、地元のお店で店員として働いていました。その後、お見合いでご結婚され上京。長女さんが生まれると、公園によく散歩に出かけていたそうです。次女さんが生まれた後は、埼玉に転居されました。転居後は地域の自治会長を3回も勤めるなど、家族だけでなく地域の人々にも頼りにされていました。40代で運転免許を取ってからは、家族の送迎などであちこちに出かけ、「もっと若ければトラック運転手になったのに」と話すほどでした。他にも、娘さんの成人式の時に着物が着崩れてしまった娘さんに声をかけ、その場で直して感謝されたこともあったそうです。73歳の頃から物忘れがひどくなり、物忘れ外来を受診しましたが、年相応との診断でした。78歳頃からは料理が出来なくなるといった症状が出始めました。80歳頃からは徘徊や過食・過度の飲酒がみられ、持病の糖尿病の悪化や外に出て迷ってしまい警察などに保護されることもありました。83歳の時にご主人が亡くなってからはさらに症状が悪化し、コンビニ前で倒れて救急搬送され、意識障害・高血糖・認知症と診断されました。在宅介護に戻るのは難しく、令和6年5月当院に入院されました。



入院後はご自身で歩き、お食事もお召し上がっています。ご自身で歩けるのは、「人は歩かないと弱る」と昔に病院で言われたようで、それを守って散歩を欠かさなかったからでしょうかと娘さんはおっしゃっていました。昔自治会長をなさっていたこともあり、職員のお手伝いや色々な患者さんの話を聞いて、お世話をしてくれています。お菓子が大好きで、おやつの時間を楽しみにされています。また、時々入浴を拒否する時がありますが、「そんなこと言わずに、お風呂でさっぱりしましょう」と声を掛け、お風呂に入ってもらおうと「気持ちよかった」と笑顔が見られます。これからも、元気で過ごせるようお手伝いをしていきます。

## 作業療法だより

昼夜の寒暖の差もだんだんと大きくなり、少しずつ冬の訪れを感じるころになりました。セントノアの畑の様子も少しずつ様変わりし、芋掘りが終わった後、今は白菜、大根、ブロッコリーがすくすくと成長しています。



11月は芋煮会を行い、収穫したさつま芋やほうれん草を使って、患者様たちと楽しいひと時を過ごしました。さて、次は冬野菜を使ってどんな料理を作ろうか、今から楽しみです。



## 今月のナナ

ナナちゃん、お友達とい

っぱい遊んだね♡

今晚は、ぐっすりだ〜♡

(-\_-) zzz

